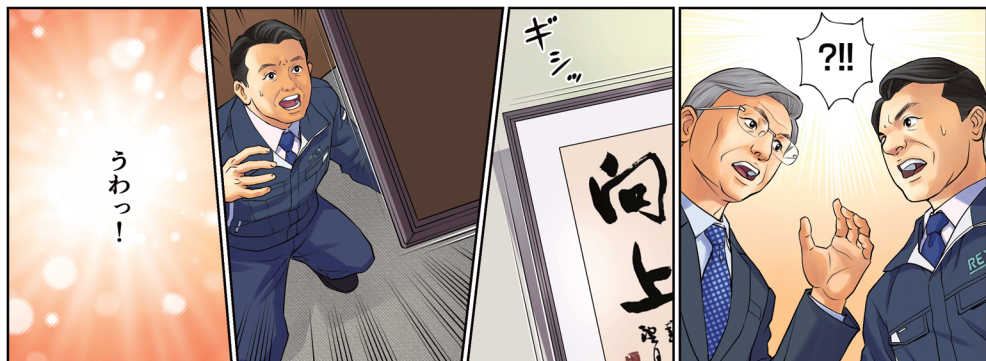
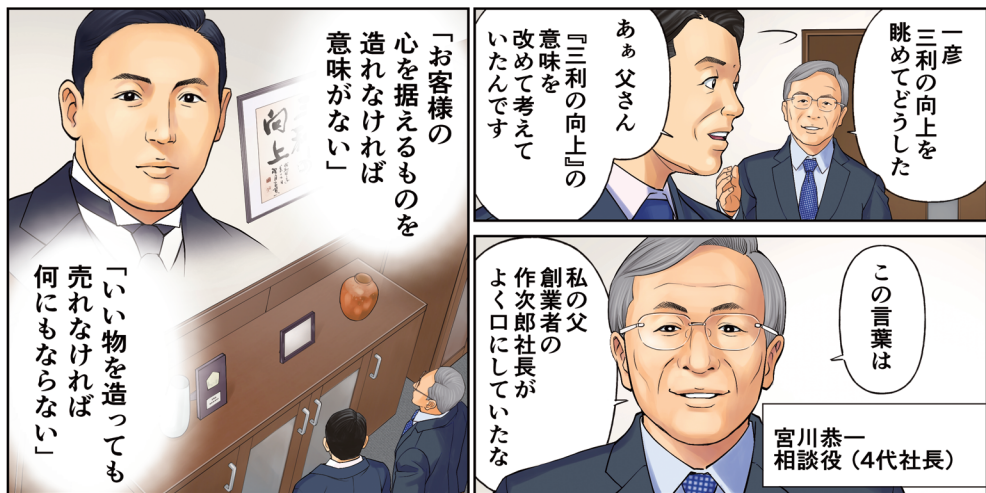


「三利の向上」に込められたレッキスの想い

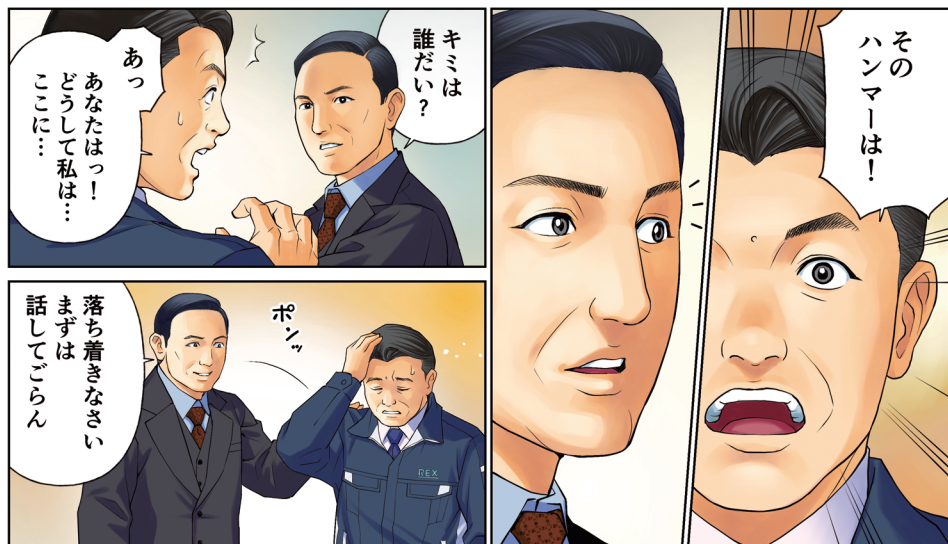
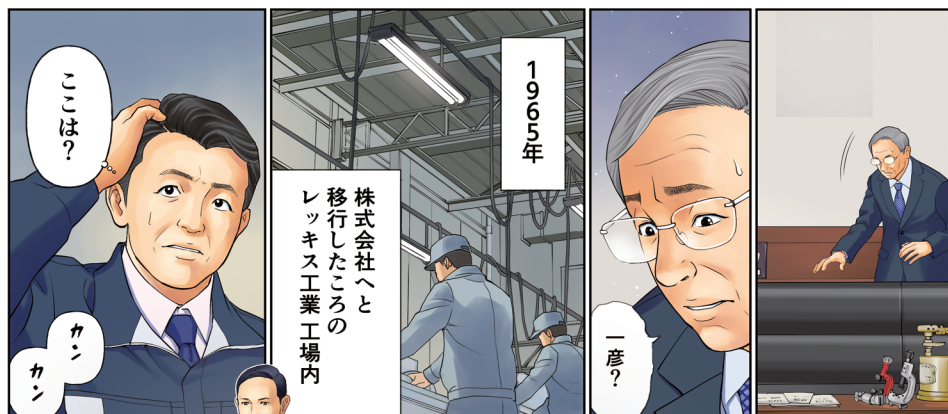
# レッキス 創業伝

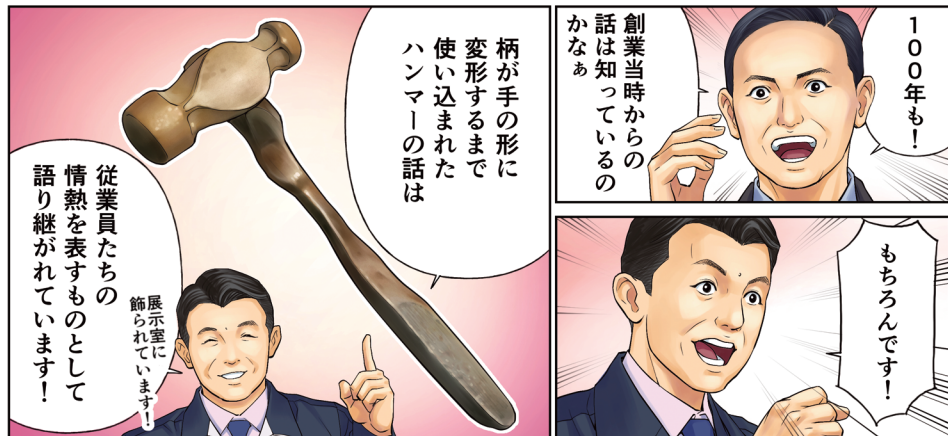


Anniversary  
1925-2025

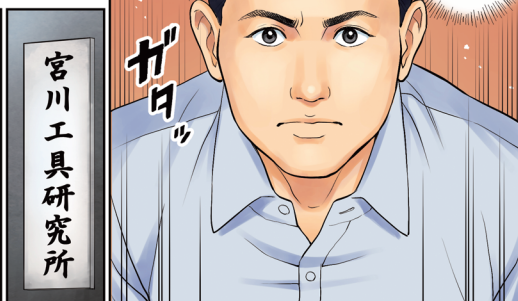
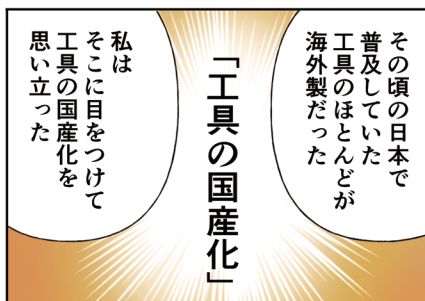
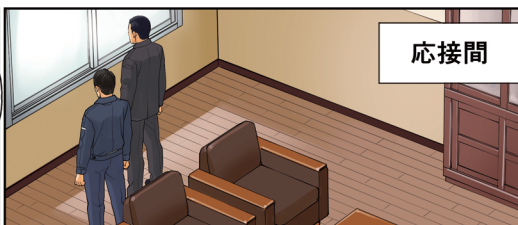
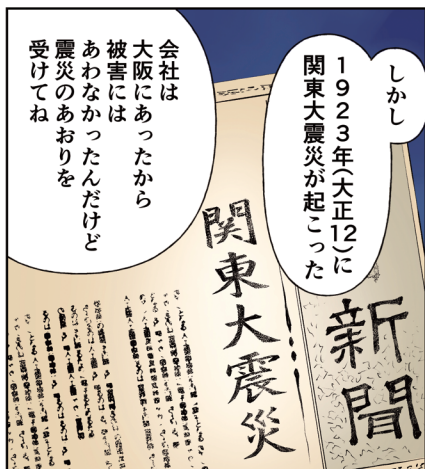


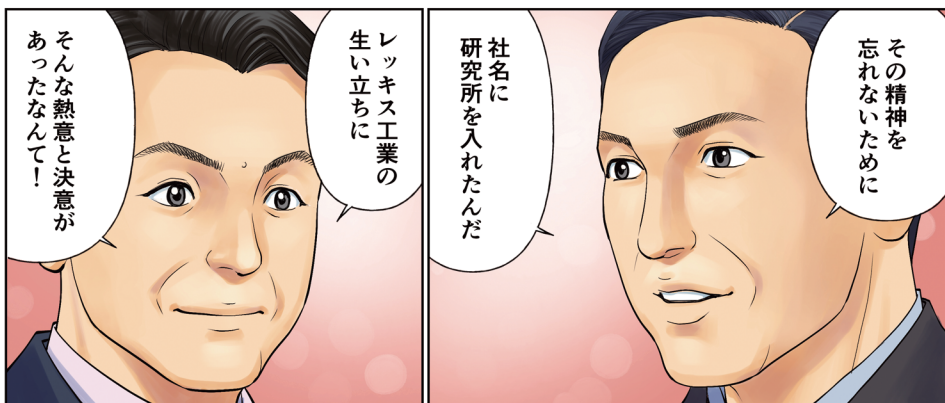
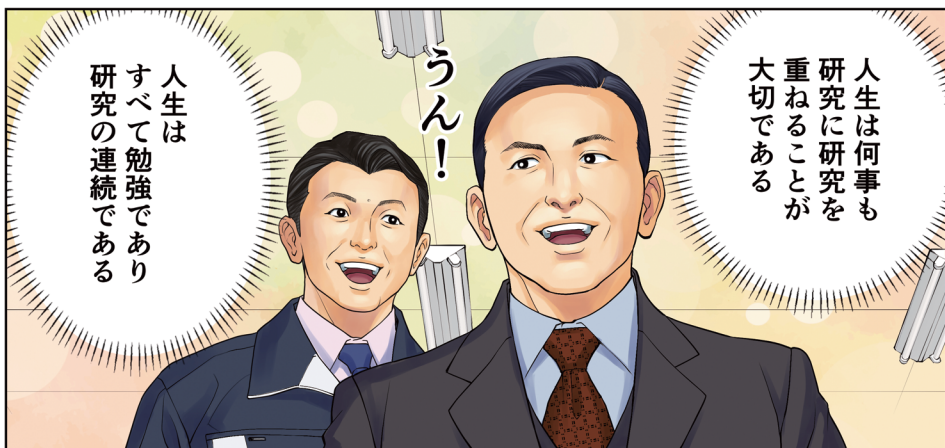






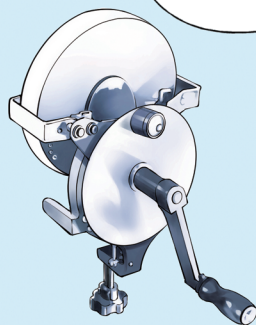






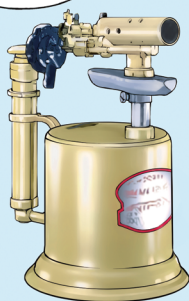


工場を  
始めたとはいえ  
私は  
もともと商人



手回しグラインダー

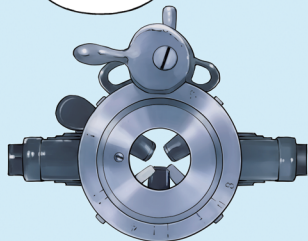
輸入品の工具を  
分解しては  
改良を重ねて  
商品化していった



トーチランプ

長く険しい道のり  
だったけども

なんとか19年で  
負債は  
返済できたんだ



パイプねじ切器

再スタート後は  
努力に努力を  
重ねて…  
返済をしたあとは



知っています！

高度化・省力化の波が  
押し寄せ  
業界が機械化に向かう  
変革の時代だった

私は  
「電動ねじ切り機」に  
将来性を感じ

第2工場を建設して  
国内生産を行った！

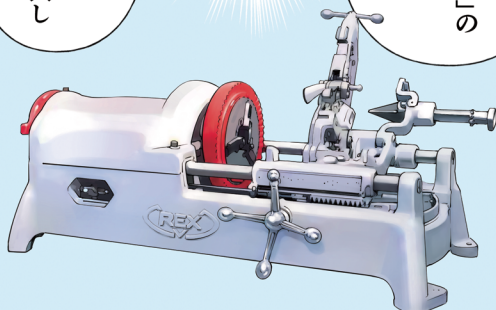


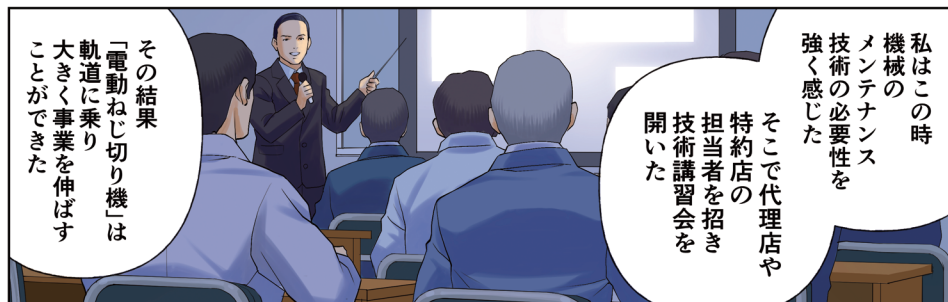
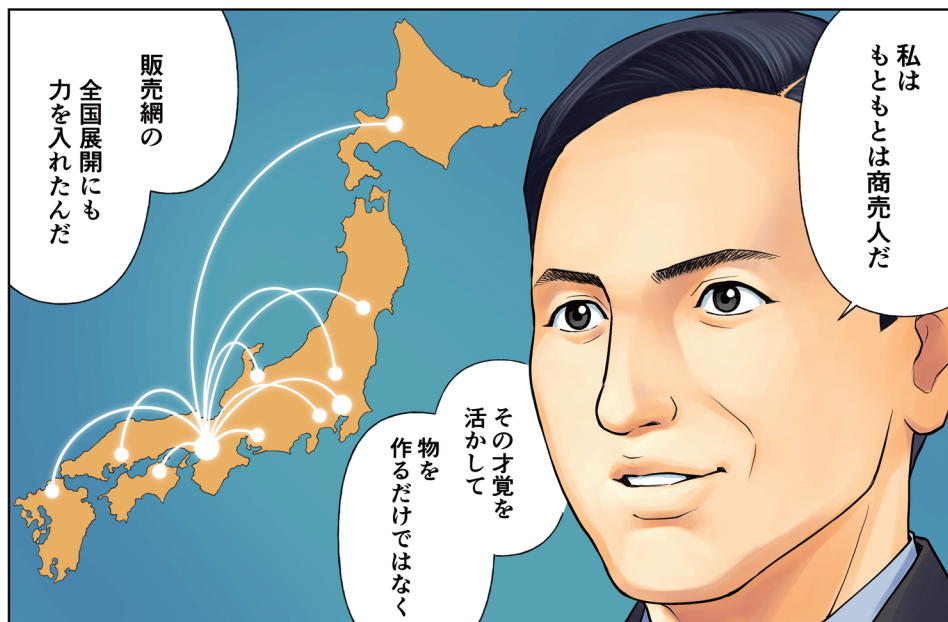
高度化  
省力化

「電動ねじ切り機」の  
国産化に  
成功したん  
ですよ！

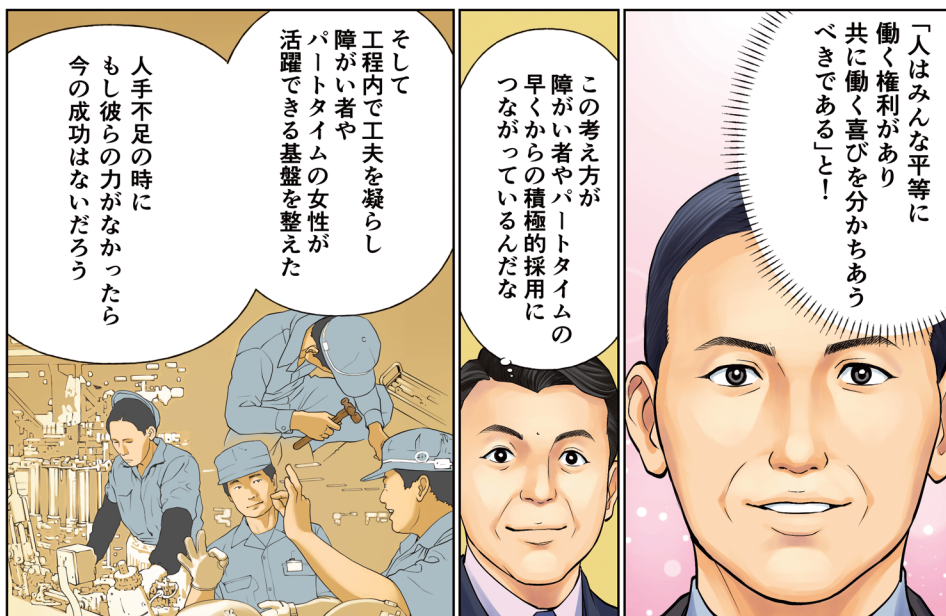
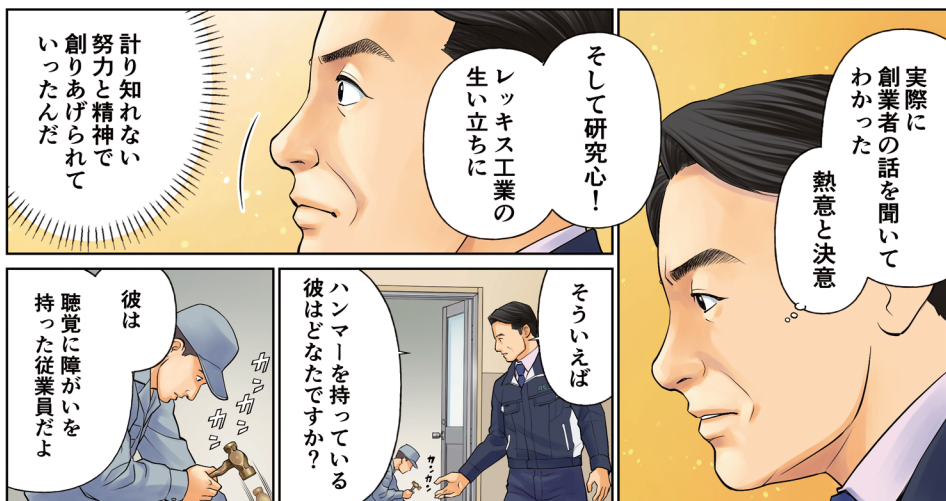
国産化

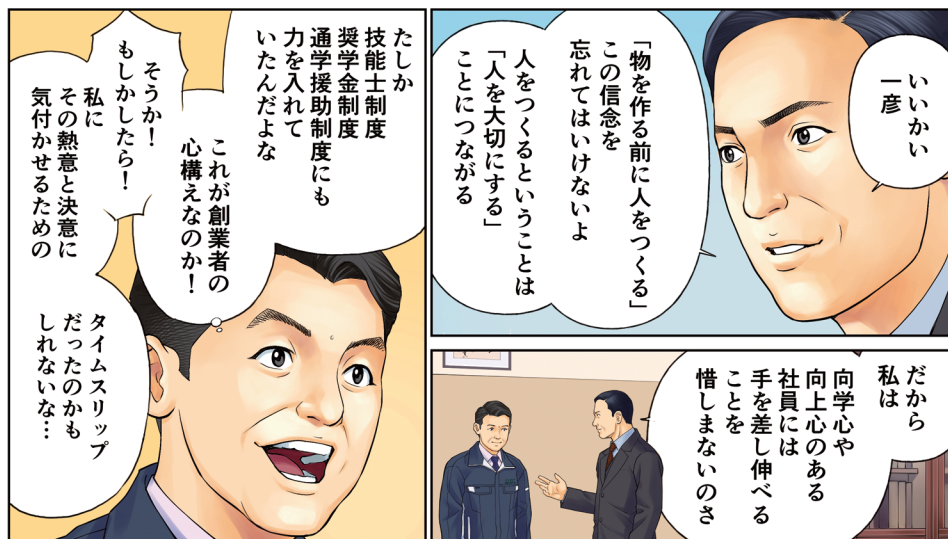
その通り！  
当時の日本は  
高度成長期に突入し

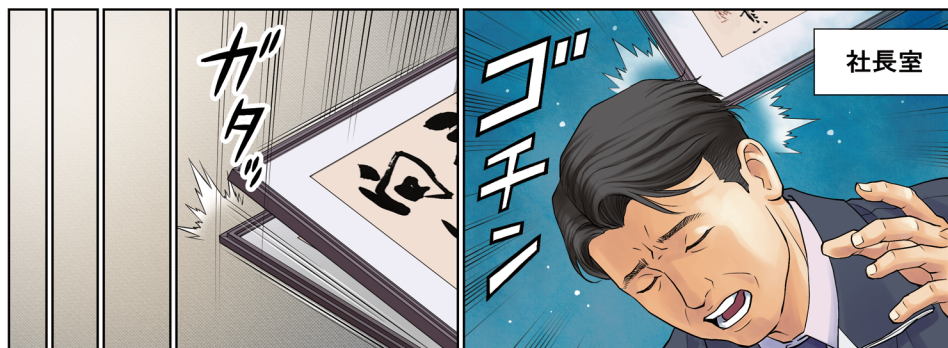














# 【解説】



# REX

## 創業者が唱えた 三利の向上と経営哲学

「三利の向上」とは、「お客様・取引先様・社員の三者の利益」とされています。つまり、お客様・取引先様・そして社員というつながりの中にREXが存在しているのです。この三者すべてが良い状態でなければ、会社の繁栄はありえない——そう考えています。

「三利」の“利”とは“利益”のことですが、単に商売上の利益や儲けだけを指しているのではありません。もっと広い意味での「利」、すなわち「ためになること」や「役立つこと」を意味しています。REXは、共に治め、共に栄え、共に幸福を分かち合う「共治・共栄・共福」の実現を目指しているのです。

では、三者の利益を高めていくために、企業として何を為すべきなのでしょう。

この問いに対し、創業者「宮川作次郎」は次のような理念を掲げています。

「お客様の心を捉えるものを造らなければ意味がない」

「どれだけ良い物を作っても、売れなければ何の意味もない」

これが、創業者の経営哲学でした。お客様の心をつかむ商品をつくるため、徹底的に研究し、どんな努力も惜まず、全力でチャレンジし続けること。そしてその姿を通して、社員一人ひとりがこの取り組み姿勢を学び、根本精神として体得してくれることを、創業者は願っていたのです。

## 枝型ボール盤について（表紙背景）

この枝型ボール盤は大正十二年関東大震災の折、火に遇いましたが間もなく縁あってわが社に引き取られました。前社長宮川作次郎は大正十四年このボール盤をもとにして、大阪市港区北境川でそれまでの商売をやめ、機械の製造に専念する決意をかため、まず手始めに「手廻しグラインダー」国産化の第一歩を踏み出しました。

当時我社にはボール盤はこれ一台しかなく前社長自ら陣頭に立ち、従業員の退出後も実際にハンドルを握り、それこそ昼夜をわかつたず使用されたので、このボール盤は我社の今日を築いた忘れることのできない歴史的な記念すべき機械の一つであり、このボール盤の隅々にまで社長の魂がこもっております。またこのボール盤は創設時に使用しはじめてから約二十五年余の長きに亘り、修理に修理を重ねて働きつづけ私のみならず毎日その働き振りを見ていた従業員にとりまして感慨深いものがあると信じております。私は由緒あるこのボール盤を我社の至宝として、事あるごとに往時を追想し初心を忘れないためにいつまでも大切に保存しておきたいと思えます。

昭和50年 8月 2代社長 宮川典子



レッキス工業株式会社

【本社工場】〒578-0948 大阪府東大阪市菱屋東1丁目9番3号

【TEL】0120-475-476

発行責任：藤井公穂（マーケティング部営業企画G）

資料提供：宮川恭一（4代社長・現相談役）

ホームページ Instagram



発行年月 2025年05月